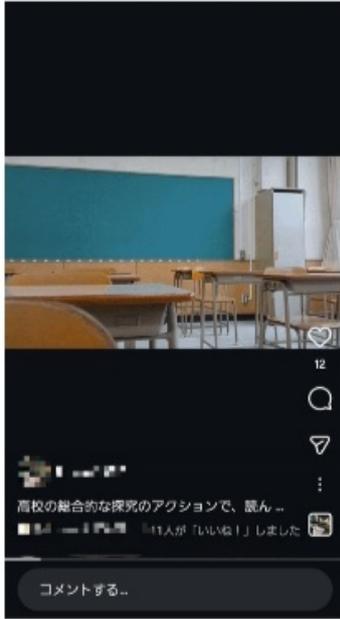
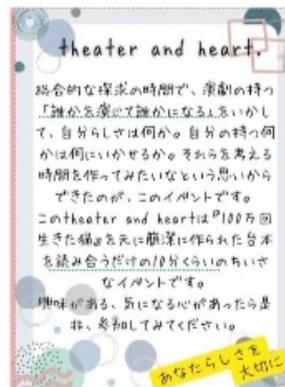


物語と心理を組み合わせてできる可能性作り

～経験したこと、物語と心理を組み合わせて～



可組物
能み語
性合と
作わ心
りせ理
てを
でき
る



経験したこと、
物語と心理を組み合わせて

物語と心理を組み合わせることができる可能性作り

～経験したこと、物語と心理を組み合わせ～

角田 陽咲



活動概要

活動の内容

- 6/10～6/13 現状理解 整理のための情報収集 アンケートインタビュー
- 6/17～9/4 『Theater and heart.』準備
- 9/5 『Theater and heart.』棚倉町立棚倉中学校(学びの多様化学校) 事前打ち合わせ
- 9/6～9/10 反省・改善点まとめ → 新実践活動へ
- 9/17～9/24 『My little theater.』準備
- 9/25 『My little theater.』実施
- 9/26～9/30 感想アンケート収集 → 反省
- 9/4. クラス発表
- 11/14. 『静か会』参加
- 11/29～ My little theater SNSに活動発信

活動の特徴(新規性・発展性)

私の活動の特徴は、自ら不登校を経験したことを元に物語を通じて行う実践活動です。中学1年の夏から不登校生徒になった私が経験した、ひたすらに苦しい現実の中で何を求めているのか、何をしてほしいのかをヒントに形成していきました。また、物語として演劇のワークショップにしたことで、演劇の持つ共感性を活かして、不登校問題×物語のワークショップを企画・実施できたこともポイントです。

活動の成果

まず、不登校問題を実際に抱えた環境にいる人達との交流でリカバリーの支援をしていけるように努めました。また、人の心情に触れる特徴を持つ演劇を組み合わせた実践活動により、地域社会の中にある不登校問題、その問題を取り巻いているものは何かを考えたときに出てくる『いじめ』に対する理解の意識向上を図りました。その結果、社会にある不登校の悩みに踏み込み、参加者の考えについて少しでも変えることができました。

課題の設定と意図

この活動で取り上げた問題は大きく2つです。1つは、『増加傾向にある不登校問題』です。2020年の新型コロナウイルスによる緊急事態宣言での休校・休業から不登校生徒の割合は増加の傾向にあります。2024年度の文部科学省の調査では、小・中学校における不登校児童生徒数は過去最多の35万3970人のデータが発表されています。2年前の2022年度と比較して5万4922人の増加となっています。その現状に対して、この数字の一人だった私にできることはないか。その気持ちからこの課題を取り上げました。もうひとつは、現代社会の中で何が求められているかです。例えば脱炭素社会や情報社会、地球温暖化対策など大きな課題は世の中に沢山あります。しかし、生きていく中でも『人間関係』は大きな課題のひとつに等しいと思います。その人間関係の問題に目を向けて、また細かく見たときに大きなワードとなる『いじめ』にも目を向けて、助け合うことも現代社会で求められていることだと考えています。そして、私の心理学への強い興味や関心、心に深く関われると思う物語を組み合わせ課題に向けて活動しました。

課題解決のための仮説と計画

私の活動の目標は『変わり続ける世の中に適応する困難はあるけれど、その支えができるようなことをしたい』。そのための実践活動について、問題解決のための仮説と計画を立てました。

①【仮説】～何をやりたいか～

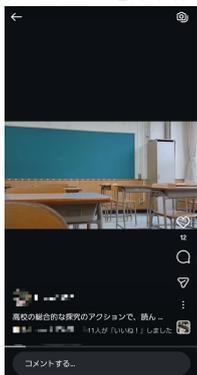
活動の軸を考えたとき、休むことに対する考え方をプラスに捉えて欲しいと思いました。私自身、頭では行かなくちゃ！と思っても身体がついてこれず「ごめんない」と、学校に行けない自分に罪悪感を感じたことがありました。マイナスに捉えることで、さらに苦しくなっていきます。しかし、休むことで身体を労り自分のSOSに気づけたことを誉めてあげてほしいと思いました。それを含めた上で、不登校問題を抱える子達のリカバリー支援、不登校の原因についての周囲からの理解をしたいと考えました。

②【仮説】～方法～

情報社会で失われがちな「人間性」を取り戻す手段として、物語に触れることが現代社会で大切にされています。また、物語に触れることで心理的影響を与えることができるといふ仮説から、物語×心理に繋がりました。その中でも、共感性のある演劇に目を向け、演劇×心理での実践活動を中心として計画を形成していきました。

③【計画】

計画として、まず現状理解の為のアンケート情報収集に取り組みました。その結果をまとめたとき、校外ワークショップを開きたいと強く思いました。そこで、①【仮説】の休むことに対する考え方、不登校問題を抱える子達のリカバリー支援を組み合わせたワークショップを企画しました。しかし、このワークショップは失敗に終わってしまいました。原因として、夏休み明けだったことや計画が甘かったところがあり、私の活動についての明確性が不足していたからでした。明確性のあるワークショップとして、私のWill、Needをもう一度整理して次のワークショップ実施・実践活動に繋げていき、成功するように計画していきました。



My little theater 活動成果の発信

- 課題ワークショップ 企画書・実施 2年4組1番 角田陽咲
- 目的**
発達障害、認知症の増加に伴って社会参加が難しくなる中高生・若年層の社会参加の促進を目的とし、演劇を用いたワークショップを実施し、参加者同士のつながりや支え合いの場を創出すること。また、演劇を通じて参加者の感情表現やコミュニケーション能力を高めること、互いの困難を克服し、コミュニケーション能力を高めることを目的とする。
 - 実施年度** 2023年(10月～12月)
 - 実施場所** 本校(100名)
 - 実施対象者** 1年生(約100名)
 - 内容**
① アイスブレイク・アイスブレイク活動、音楽活動
② グループ分け(2-3グループ)
③ 演劇(10分以内)
④ 発表(発表を促すが、または見ないでも可)
⑤ 感想の共有
⑥ アンケート記入
⑦ 振り返りシート記入
 - 実施したい理由**
① 社会参加
② 社会参加の促進
③ 社会参加の促進
④ 社会参加の促進
⑤ 社会参加の促進
⑥ 社会参加の促進
⑦ 社会参加の促進
⑧ 社会参加の促進
⑨ 社会参加の促進
⑩ 社会参加の促進

Theater and heart 打ち合わせ時の写真です。ここで、自分に足りないもの、必要なことのヒントが見つけた気がします。

活動で工夫できたこと

この活動の中で工夫できたことは、OR合宿での学びを最大限に活かすことができるように学びを意識して進めていたことです。OR合宿で私は、地域の課題であるNeedと自分の核となるWillについてを考えていきました。地域での課題は「地域づくりの理解と課題設定の基礎」について学びました。矢吹町のカーボンニュートラル03と水素社会についてを教えてください、そこから地域社会の現状について知ることになりました。矢吹町から水素社会の発信に繋げる活動を知ることで、自分のアクションへの想像がふくらみ、Needを考える時間になりました。その次に、講義「地域課題の研究」では、興味関心に基づくWillについて考えることができました。この講義では、生成AIを活用して自分のWillを簡潔にまとめたプロンプト作りをして、NeedとWillを結びつける実践活動の一步になりました。この講義でプロンプトをまとめるにあたり、私のやりたいWillと地域社会の現状であるNeedを結びつけられない壁にぶつかりました。しかし、講義を進めていただいた方々からサポートを頂き、私なりの結びつきができるようにプロンプトにまとめることができました。演劇と心理という、心の共通点を持つこの2つと増加し続ける不登校・自殺率の問題に向かって、演劇を通して心についてのイベント作りのヒントに繋がりました。また実際に不登校だった私の視点からもこうして人と繋がりたいと強く思える実践活動のきっかけ作りになりました。このOR合宿を踏まえて、私はNeedとWillの2つのポイントをおさえたうえでの実践活動に取り組むことができました。この合宿で得たNeedとWillが私の工夫の一つでもあり、また自分がそうだった視点からの実践活動、興味関心から得た心理に関する知識、部活で得てきた演劇・コミュニケーション能力を活かして、人と関わりながら成功に向けて活動できたことが、工夫できたことです。



My little theater

活動で得た学び・気づき

この活動を通して私は、3つのことを学びました。1つめは、心理についてです。実践活動を実施しようと考えたときに、今不登校に向き合う人たちと関わることはとても難しいことだと重々感じていました。実際に経験したと言っても、皆が皆、私と同じ状況ではありません。私と同じく、保健室が怖くて保健室登校もできない状況の子もいれば、何がしたいか何で学校にいけなにかひたすら考え続ける子、「ごめんなさいごめんなさいごめんなさい。」と見えない何かに謝り続けている子もいます。考え続けて苦しい頭痛を抑えるために飲む頭痛薬にすがり続けていく子、食べ物や喉を通らなくて食べられない子、起きる気力がなくて動けないというような健康面の問題を抱える子も少なからずいるはずですが、そういう子に「それじゃあ皆で演劇じゃあ！」なんて私には言えません。何かを抱える子達の為には、『知ること』が必要だと思いました。コミュニケーションをとるなかでも、相手を知ろうとすることは大切です。それと同じで、その子達の為には、私から歩み寄れるように『知っていく』ことを頑張りました。母の知り合いに、公認心理師を目指す大学院生がいます。その方にインタビューをさせて頂きました。また、図書館で心理学の本を読む、インターネットでの情報収集というように『知れる』ように頑張りました。そのなかで、深くはないけれど心理について学ぶことができました。2つめは『好き』の大切さです。私のこの実践活動は、心理と演劇に対して『好き』という感情があったからこそやり遂げられた実践活動です。1回目の実践活動が失敗したとき、正直もう無理なのかなと諦めかけました。心理と演劇なんて組み合わせられないからと、別の実践活動を考えたりもしました。でも、やっぱり私は『誰かと作るからこそ、自然と心が通じ合える、暖かい演劇とその心の理由についてを求める心理を組み合わせる実践活動を起こしたい！』と強く思い諦めませんでした。それほど、『好き』という感情は大切に、これからのこの感情を大切にしていきたいと思いました。3つめは、感謝の気持ちです。実践活動を達成するまでに、沢山の方にサポートを頂きました。校外ワークショップを企画実施するにあたって、担任の先生からのサポート、教頭先生からの協力、部活の先輩からの助言や友達からのアドバイス、送迎や悩みを聞いてくれた両親と、沢山の方に支えて頂けたことで活動をやり遂げられました。

今回のこの活動で、私は現代社会に向き合って考えることの難しさを知り、またその促進に小さいけれど携わることで達成感や喜びも学ぶことができました。

今後の展望・新たな取組み

今回の体験を踏まえて、心理への探究心がさらに深まると同時にもっと沢山の友達と対話をしていきたいと思いました。私が将来学びたいことは心理学です。人の脈で嘘を図る、目線や手の仕草、足の置き方・組み方で分かるといった行動心理学を学び、1人1人に真剣に向き合い悩みを解決するカウンセラーに憧れています。現代社会で増え続けている自殺率を減らすことができる仕事でもあると思います。この特徴を持つ仕事だからこそ、実践活動を通して不登校や自殺率問題と向き合い、社会と関わっていききたいと思えます。そして、変わり続ける世の中に適応していくことが求められる現代社会に対して、苦しむことが何度もあるからこそ、よりよい人生を過ごすことは簡単ではないと思います。難しい課題だからこそ、挑戦する姿勢を大切に、よりよい人生を過ごせるようにしていきたいです。

これからの取り組みとして、不登校問題を取り巻く原因として大きく挙げられる『いじめ』に目を向けてみて、『いじめ防止条例の推進』に関わってみたいと考えています。学校・家庭・地域・行政が連携して、いじめの未然防止、早期発見、早期対応の各段階で具体的な対応が条例では求められており、それを推進することを指しています。学校・家庭・地域・行政の4つの中で、学校と地域にこの条例を推進していけるような実践活動を起こしていきたいと考えています。しかし、一言で『いじめ』といっても何がいじめなのか曖昧だと思います。そんなつもりなかったのに…から始まるいじめもあれば、計画的にしたいいじめ、嫌だけど逆えずにやってしまういじめなど様々あります。その様々への理解も、不登校問題・いじめ問題に必要な条件だと思います。だからこそ、今回の2回目の実践活動のように、問題についての理解の意識向上を図ることも努力してみたいです。また、物語に触れることをもっと中心に考えて、絵本を創るワークショップを開催したいです。そこで、物語に載せる思いとゆっくりと自分を振り返る時間を作ってみたいとも思っています。このように、やりたいことは沢山あり、実践するまでが難しくけれど諦めずに実践できるように、少しずつ、今回の実践活動の延長線を歩んでみたいと思っています。

実践活動時の動画や成果物等

動画URL	二次元コード	添付PDF なし
https://youtu.be/NiMY_JBmYVQ?si=nVfQpnRkQ20SvdHM		

1. 地域探究アワードエントリー情報

エントリー希望	有	エントリー単位	個人	ブロック	東北
---------	---	---------	----	------	----

2. オリエンテーション合宿及び実践活動の基本情報

合宿実施先	国立那須甲子青少年自然の家	修了日	2025/5/9	カリキュラムのタイプ	B
フィールドワークの内容					
実践活動期間	2025/5/10 ~ 2025/11/30				
活動のタイプ	新たな活動				
共同実施者	有	似ているテーマを持つ友達のアクションの活動として、静か会の手伝い参加した。			
協力者	主な協力者			協力内容	
	所属	福島県立光南高等学校		実践活動に関するサポート	
	氏名	鈴木博幸			
	所属	福島県東白川郡棚倉町立棚倉中学校		校外ワークショップ企画 打ち合わせのサポート	
	氏名	新井田貴之			
	所属	福島県立光南高等学校演劇部		演劇に関する実践活動へのサポート	
氏名	演劇部員				
協力者総数	16名		協力団体数	3団体	

3. 実践活動の記録

(1)総活動日数 全 33 日

事前:準備・打合せ	18日	本番:メインの活動	2日	事後:ふりかえり・報告	13日
-----------	-----	-----------	----	-------------	-----

(2)活動成果の発信等

媒体	方法	回数	概要・備考
SNS	自ら発信	1回	自分のInstagramアカウントにMy little theaterの活動成果を発信
SNS	自ら発信	2回	アクション用InstagramアカウントにMy little theaterの活動成果を発信

(3)主な活動記録

活動日時	区分	活動場所	活動内容
9/5 ~ 9/5	①事前学習・打合せ等	福島県東白川郡棚倉町立中学校	Theater and heart についての打ち合わせ
9/17 ~ 9/24	①事前学習・打合せ等	福島県立光南高等学校	My little theater についての広告、場所確保、台本作成、事前打ち合わせ
9/25	②実践活動本番	福島県立光南高等学校 部室	My little theater 実施
9/26 ~ 9/29	③事後打合せ・報告会等	福島県立光南高等学校	参加者からのアンケート・感想収集活動についての反省
6/10 ~ 6/13	①事前学習・打合せ等	自宅/福島県立光南高等学校	心理学についての事前学習の為にインタビュー/高校1~2年生へのアンケート